

市民参加実施記録

| | |
|---------------|---|
| 案件 | 第七次伊達市総合計画策定に係る団体懇談会（教育・文化・スポーツ） |
| 市民参加の方法 | 説明会 |
| 実施日時 及び場所等 | ・平成29年12月22日（金）18時30分～20時00分 ・市民活動センター 多目的室1・2・3 |
| 所管部課名 | 企画財政部企画課 |

【概要】

<出席者>

市：企画財政部長、教育部長、教育部参与、建設部長、財政課長、企画課長
事務局（企画調整係）

住民：15名

1. 開会
2. 企画財政部長挨拶
3. 説明

4. 意見交換

【住民】

伊達市は、市民農園を100戸分区切っているが、どのくらいのランクと位置づけているのか。去年までは全戸分埋まっていたが、今年は市民農園の一区画当たりの料金をはじめ、いろいろな施設の使用料などが値上げされたことで半数以上も埋まらなくなった。市は市民農園を「生きがい」と位置づけているので、儲けることを主体としてはいないと思うが、実態を把握して市民に利用しやすいようにしてほしい。

【事務局】

100戸というのは相応の戸数だと思う。使用料の値上げについては、もちろん儲けようという考えではなく、維持管理に必要なだけ値上げするというもので、相応の負担であると認識している。

【住民】

私はシッティングバレーボールをやっていて、先日「ガチパラ！」というイベントに参加し、子どもたちと交流したが、障がい者スポーツをもっと子どもたちに知ってもらう取組を教育現場で行って欲しいと感じた。障がい者と子どもが交流を持つことは、福祉のまちにふさわしいことだと思う。

【事務局】

学校教育の中で子どもたちは福祉について学んでおり、その中では実際に障がい者の方をお招きし色々と教えていただいている。今後はオリンピックもあるので、教育委員会で障がい者スポーツに関する教育について考えていきたい。

【住民】

間もなく市に歴史文化ミュージアムができる。伊達市において、歴史・文化資産の活用を進めることは経済活性化につながると思うが、ミュージアムの完成後の運営について何か計画は

あるのか。北海道の地方にあるミュージアムの多くは赤字が多く、負担が大きいと聞いている。

【事務局】

試算したところ相当高い入館料にしなければ採算が合わないため、ミュージアムの入場料だけの黒字経営は考えておらず、物産館など周辺の施設を含めた経済の活性化を考えている。

ミュージアムでは、伊達市の文化に関する貴重な資料や伊達市内の芸術家の作品を計画的に展示するなどして、何度でも来館してもらえるようにする。そうした中で伊達市の知名度向上と、来館者に伊達市内でお金を使ってもらうことで相対的にプラスになる運営を検討している。

【住民】

経済効果の面でもリピーターを増やすことが一番重要だと思うが、実際は難しいのではないかと。近くにある体育館やカルチャーセンター、物産館について、以前は周辺一帯を法人化して「株式会社 歴史の杜」のようにする考えがあると聞いたが、そうした計画はあるのか。

【事務局】

正式にそのような計画は聞いていないが、市長の考えの1つにはあるかもしれない。

【住民】

コミュニティスクールとはどのようなものか。地域に根差した児童館ととらえて良いのか。

【事務局】

コミュニティスクールは、従来の学校が中心となって子どもたちを育てる仕組みとは違い、保護者を含め地域として子どもたちを育てていく仕組みのことである。コミュニティスクールは、学校運営協議会（校長や PTA 代表等から構成される）の通称であり、学校運営協議会を設置している学校及び仕組みのことを指す。

【住民】

放課後子ども教室は障がいのある児童も対象としているのか。

【事務局】

放課後子ども教室は学校に通っているすべての子どもを対象にしている。参加希望があれば誰でも参加できるので、障がいのある方ももちろん対象である。

【住民】

不登校や引きこもりなどの子供たちを対象にした支援はあるのか。

【事務局】

不登校の子どもについては、全家庭にコンタクトを取り、保護者の同意があれば面談をしている。学校の代わりにボランティアの方が運営している「フェニックス」という場で勉強すれば登校したと見なすなど、子どもたちが社会から断絶しないように取り組んでおり、不登校の数は徐々に減少してきている。

【住民】

スポーツの合宿施設の環境整備をして欲しい。以前「青年の家」があったころは他の団体も遠征に来ていたが、最近は宿泊施設がなく体育施設の利用も減ってきている。ホテル等の宿泊

施設は子どもにとって高額である。炊事設備があれば、保護者が食事を作るので調理師も不要である。まなびの里での学校を利用した宿泊施設の整備計画があると聞き期待している。伊達市は気候が良く合宿を希望する団体が多くいるが、現在は断らなくてはいけないことがある。

また、少年野球の全道大会ができるように野球場は2面欲しい。財政的に厳しいかもしれないが、西胆振としてでも検討してほしい。

【事務局】

格安で宿泊できる施設の必要性は認識している。まなびの里の活用方法については、札幌の大学生の協力を得て検討している。

サッカー場は2面必要だと認識しているが、場所や時期については検討中である。野球場は伊達市内に北電球場と市営球場があり、新たに造ることは今のところ考えていない。

【住民】

館山の市営球場の整備状況が良くなく、バックネットのスコアボードや、市道からトイレまでの砂利道、観客席が特に酷い状態である。他の市町村の野球場は非常に充実している。

【事務局】

市営球場のトイレ等は整備したが、その他の部分は指定管理している体育協会と協議し、改善できるよう考えていきたい。

【住民】

放課後子ども教室は良い取組だと思うが、今後他の小学校に展開していく予定はあるのか。是非広げて欲しい。

【事務局】

放課後子ども教室の取組は今年が初年度であり、小学校1校で試しに行っている段階である。全校で取り組みたいが、取組体制の整備（人員確保等）が必要なこともあり、平成30年度にもう1校増やし、徐々に増やしていく予定である。現在は月に数回実施しているが、スタッフが揃えば実施回数も増やしていきたいと考えている。

【住民】

恵庭のNPO法人では、小学生が主体となったイベントを開催しており、子どもたち自身がルールや役割分担を決め、子どもたちがやりたいことを大人がサポートするという体制をとっている。実行する過程を大切にし、子ども主体で行うことは良いことであり、子どもの時から生きがいを持って生活することが大切である。

また、高校生のシンポジウムの計画発表は素晴らしかったが、その計画を実行する過程も大切だと思う。場所や支援する大人など、企画・実行できる環境が必要だと思う。

【事務局】

そのような経験をできることは素晴らしい事であり、恵庭の取組の中からエキスを取り入れていければと思う。しかし、そういった取組を進めるためには支える大人が必要であるため、NPO等の協力を得ながら子どもが活躍できる場をつくりたい。

伊達市では、高校生がまとめたことを小学生に発表してもらう機会を設け、小中学生が高校生の学習過程を見て学ぶ取組を続けていく。

【住民】

小中学校の体育館の夜間開放などは行っているのか。

【事務局】

学校施設の開放事業で行っていて、様々な団体が利用している。教育委員会生涯学習課で申し込みを受け付けている。

【住民】

食育センターも建てられているが、総合体育館の駐車場が満杯であり苦情も多い。図書館横の芝生スペースや、体育館横のシャミチセ川の土盛り部分を駐車場にしてはどうか。

【事務局】

Bocca 前に約 30 台分の駐車スペースを広げる予定である。まだ足りないと認識しているが、場所がないため現状は厳しい。

シャミチセ川の土手に関しては、河川管理上駐車してはいけないことになっている。

【住民】

図書館横の芝生スペースの利用についてはどう考えているのか。お祭りのときに駐車場として利用しているのを見たことがある。

【事務局】

夏季駐車場として一部を利用できるようにすることはあるが、冬場などは地面がぬかるんでいるので基本的には駐車場としては利用できないため、今のところ芝生スペースを常時駐車場にする計画はない。また、この場所については、図書館側から騒音問題など駐車場に反対する意見もあり、方針について検討している最中である。

【事務局】

自家用車の利用が一番便利だということで、駐車場不足が問題になっている。以前は、体育協会がバスを所有しており利用者を送迎していた。今後は高齢者の増加が見込まれ、駐車場が限られる中、体育館の運営に関して公共交通に対する期待はあるか。

【住民】

2 年前までは、体育協会がバスを所有し利用者を送迎していたが、維持管理費がかかることや利用者数が安定しないことがありやめてしまった。今は近所に住む人も車で体育館に行く上、公園内の少し離れた駐車場の利用を呼び掛けても、より近くに駐車しようとする人もいる。公共交通の利用を勧めることも大事だが、近場の人は徒歩で来館するよう呼びかけることも必要ではないか。

【住民】

体育館を子どもが利用する場合は、保護者が車で送迎することが多く、送迎のために車を止め続ける人が多いことも混雑の原因だと思う。公共交通機関で子どもが自分で行けるように環境を整えることも、駐車場の混雑を緩和するために大事だと思う。

【住民】

空き家の有効活用について、緑団地には壊れたような状態で残っている家が多く、お金がないからと放置している所有者がほとんどである。伊達市は空き家対策をどう考えているのか。

また、台風で枯れた木がそのままになっているので、どうにかして欲しい。

【事務局】

空き家を取り壊すための補助として、上限 50 万円を市が負担する制度があり、今年度は 6 件決まった。来年度も継続するが、取り壊すための助成金より、市外からの移住者向けにリフォームをするための助成金制度を整備していきたい。

台風後の整備に関しては、12 月上旬まで査定で忙しく、手が回らなかったことをお詫びする。業者の人手不足と予算の都合で緊急性の高いものから順次整備しているところである。

【住民】

人口将来展望を見ると、ほかの年代に比べて年少人口にそれほど大きな増減はないため、教育が今まで以上に大事になると思う。今後は子どもの学力維持や学校の適正配置に注力してもらいたい。

他の市町村の高校に進学する子どももいるが、伊達市の高校がどれだけ伊達市の子どもを受け入れる準備をしているのか、またその方針があるのか、教えていただきたい。その上で他の市町村に進学しても、伊達市に戻ってきてもらえる様な伊達市について学習する教育政策はあるのか。

【事務局】

学力維持に関して、以前は学校の授業で十分維持できるものだと考えられてきた。しかし過去 10 年間の全国学力学習状況調査では、授業同様に家庭内の子供に対する関心や地域への興味関心、スマートフォンの使用に関する家庭内ルール作りなど、学力とは違う部分も学力維持に影響している・大事であるとわかった。

伊達市は、地域や家庭の役割を理解した上で子どもたちを育てることを目的として、コミュニティスクールを導入した。また、伊達市を好きになってもらう、理解してもらうための「伊達学」の導入を考えている。「伊達学」は、伊達市の産業・文化・歴史について学んでもらい、将来的に伊達市に戻ってきてもらうことや地元を誇りを持ってもらうことを目的としている。「伊達学」の内容は、学校の勉強だけで育まれることではないので、各分野に長けている伊達市民に協力してもらい、子どもを育んでいきたいと考えている。

高校の編成については、北海道教育委員会が適正配置等を決定している。道教委には、伊達市内に高校は必要であり、伊達市ならではの特色を出したいという要望を今後も出していく。

【住民】

スポーツに関わる取組は割と多いように感じるが、文化や芸術に関して、伊達市が大々的に取り組んでいるものは少ない。先日、北海道新聞社の講演会で北川フラムさんの話を聞いた。内容は、少子高齢化に悩む自治体で芸術祭を成功させた話であった。億単位の予算が必要であるので伊達市では難しいかと思うが、間もなく完成する歴史文化ミュージアムに期待している。歴史文化ミュージアムやカルチャーセンターなどで、伊達市の歴史や文化を融合させ、伊達市出身のアーティストを招待し、定期的なイベントができれば良いと思う。

【事務局】

メセナ協会と生涯学習課で取り組んでいきたい。

【住民】

伊達市は、北海道内で一番早くマラソン大会を開催するが、車いすマラソンには 10km コースしかない。初心者向けに 2km コースの設定や車いすの貸出をするなどすることで、車いす

について学ぶ良い機会になると思う。フルマラソンは参加料も高く、参加者数も少ない。競技用車いすだけでなく、普通の車いすを利用している人も参加できるような、気軽に参加できるイベントにしてはどうか。

【事務局】

近年、車いすマラソンへの参加者をはじめ、マラソン大会への参加者が減少している。提言いただいたようにコースを短くすれば参加者数も増加する可能性があると思うので、今大会には間に合わないと思うが検討していきたい。また、今大会から、運営がボランティアスタッフから教育委員会に変わったので、これまで以上にしっかり取り組めるかと思う。

【住民】

私は京都府より移住してきて、伊達市に不満はなく、良い所だと思っている。ホームページでも「福祉のまち」をアピールしており、障がい者や高齢者などの移住者を募っているようだが、今後は、高齢者の増加と共に扶助費も増加すると考えられる中で、まちとして税収増などは考えられるのか。

【事務局】

人口が増えれば交付税も増える。障がい者はさらに係数が上がり、交付税が増えるので収入としては増えることになるが、逆に市からの扶助費も増えるため財政面だけを考えると難しい。しかし、これまでの経過から考えても急に「福祉のまち」から方向転換はしないと思う。

平成29年12月開催

第七次伊達市総合計画に係る

「団体懇談会」

伊達市企画財政部企画課企画調整係

重点政策の 4つのキーワード

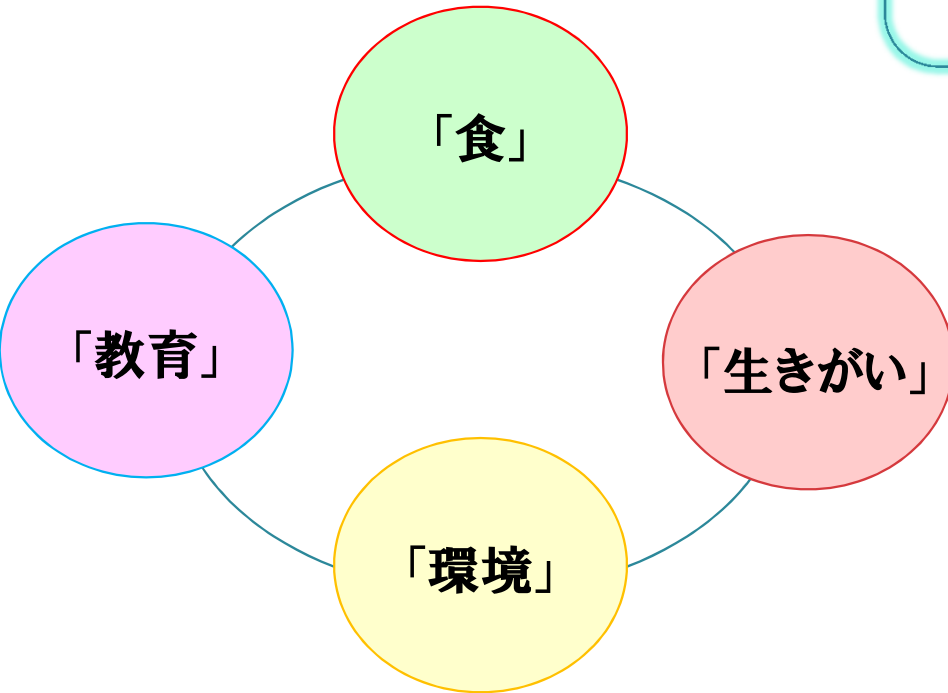
【将来像】

自然を育み

未来に向かって挑戦
する

人にやさしいまち

分野別政策 (5つの領域)



重点政策

| | 01 産業 | 02 福祉・市民生活 | 03 教育・生涯学習 | 04 都市基盤・生活環境 | 05 自治 |
|------|-------|------------|------------|--------------|-------|
| 食 | ● | ● | ● | | |
| 教育 | | | ● | | |
| 生きがい | | ● | ● | | |
| 環境 | ● | | | ● | |

「重点政策」は将来像の実現に向けて、限られた財政資源や人的資源を効率的・効果的に活用して**重点的・優先的に推進する**戦略的・横断的政策として掲げるものです。

「分野別政策」は全ての行政課題を分野別に分類して、まちづくりに取り組むための**政策全般を体系化**したものです。

分野別政策

1. 産業

- ◆新規就農者受入推進
- ◆亙理町イチゴ生産者支援
- ◆地域循環型ポイントカード運営補助
- ◆観光物産館整備 **食**
- ◆大滝区サービスステーション整備
- ◆木質ペレットプラント運営管理 **環境**
- ◆伊達野菜ブランド化の推進 **食**

2. 福祉・市民生活

- ◆公立・民間保育所整備
- ◆伊達駅前周辺整備
- ◆伊達赤十字病院医療確保支援補助
- ◆駅前団地へのシルバーハウジング整備 **生きがい**
- ◆看護師等修学資金貸付事業
- ◆新たなコミュニティ創出 **生きがい**

3. 教育・生涯学習

- ◆だて歴史の杜食育センター整備運営
- ◆だて歴史文化ミュージアム整備
- ◆コミュニティスクールの推進 **教育**
- ◆放課後子ども教室運営事業

4. 都市基盤・生活環境

- ◆空き家ストック有効活用推進
- ◆防災公園だて歴史の杜整備事業（体育館・プール等） **生きがい**
- ◆大滝区定住促進住宅整備

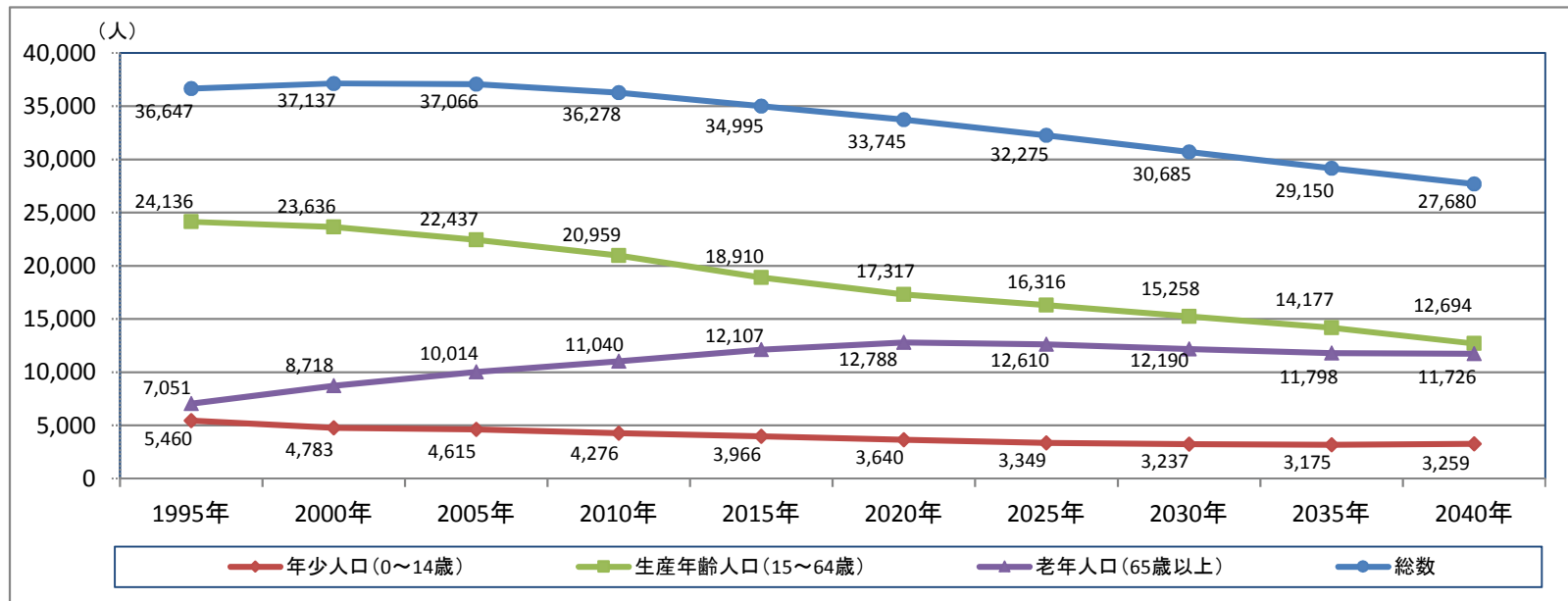
5. 自治

- ◆コミュニティFM放送局整備
- ◆3市3町による広域連携の推進

■人口の将来展望

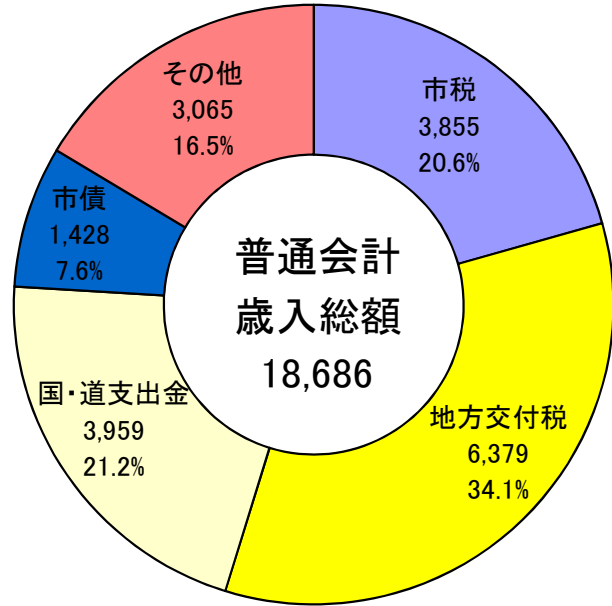
| 年代 | 実績値 | | | | | 推計値 | | | | |
|--------------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 1995年 H7 | 2000年 H12 | 2005年 H17 | 2010年 H22 | 2015年 H27 | 2020年 | 2025年 | 2030年 | 2035年 | 2040年 |
| 総数 | 36,647 | 37,137 | 37,066 | 36,278 | 34,995 | 33,745 | 32,275 | 30,685 | 29,150 | 27,680 |
| 年少人口 (0～14歳) | 5,460 | 4,783 | 4,615 | 4,276 | 3,966 | 3,640 | 3,349 | 3,237 | 3,175 | 3,259 |
| 生産年齢人口 (15～64歳) | 24,136 | 23,636 | 22,437 | 20,959 | 18,910 | 17,317 | 16,316 | 15,258 | 14,177 | 12,694 |
| 老年人口 (65歳以上) | 7,051 | 8,718 | 10,014 | 11,040 | 12,107 | 12,788 | 12,610 | 12,190 | 11,798 | 11,726 |
| うち 75歳以上 | 2,859 | 3,799 | 4,648 | 5,647 | 6,280 | 7,007 | 7,922 | 8,216 | 7,856 | 7,384 |

※2015年9月策定の伊達市人口ビジョン「人口の将来展望」に、2015年国勢調査結果を反映し再推計したもの。単位は「人」

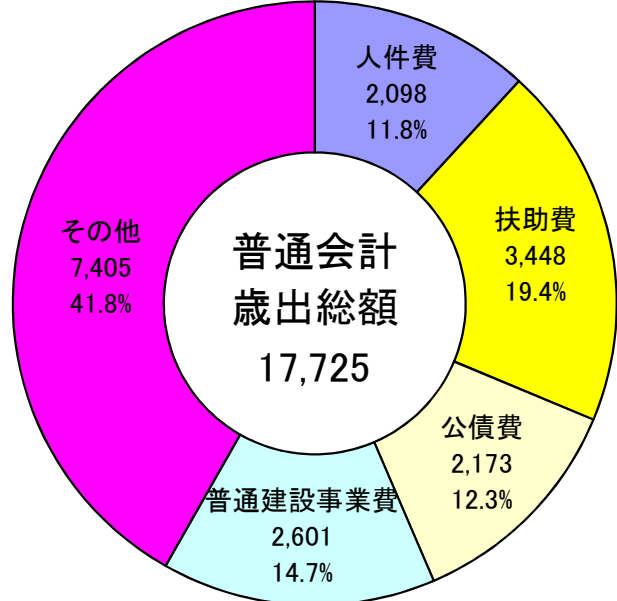


■ 財政見通し

平成28年度普通会計歳入決算 単位:百万円



平成28年度普通会計歳出決算 単位:百万円



地方税及び普通交付税の推計 単位:百万円

